



# 松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡 ～6度にわたる踏査の業績を未来へ～



松浦武四郎（1818-1888）は、アイヌの人たちの助言と協力を得ながら6度にわたって蝦夷地を踏査した。膨大な報告書を幕府に提出したほか、明治政府に必要とされ開拓判官に就いた。武四郎の業績は、北海道の沿岸・内陸を問わず踏査し膨大な記録を作成したこと、蝦夷地に関する多くの書物を出版したこと、北海道の名づけ親としてまた、国・郡の範囲を定めその名称を選定したこと等が上げられる。北海道各地にある身近な足跡に触れることから、その業績を知らしめ親しまれ将来に伝える手掛かりとなることを期待したい。